會社側にては最初より冗員陶汰を必要とせる關係より罷業職工中の强硬分子に對しては復職を希望せず、就中若林技師長以下各所々長等は彼等を鑵詰職工等と同一場所にて作業せしむるは嫌ては職工の内訌を釀成せしむる虞ありとて極力其の復職に反對せし爲め、遂に大勢之に決し、右通知狀記載の二十一日の日に於て更に解雇する事に決せるなり　罷業職工等は不安の念に襲はれつゝ會社側の態度に注意しつゝありしが、廿一日の結果は左の如く處分決定せり　其の解雇理由は覺書の一に準據するものなり

	罷業前の使用職工數	五月十九日現在復職々工數	罷業職工數
安治川發電所	四八六	一三九	三四七
春日出發電所	三九三	二三八	一五五
計	八七九	三七七	五〇二

	復職者數	轉勤者數	待命者數	依願解職者數	解雇者數	計
安治川發電所	一一四	五一	七〇	二二	九	三四七
春日出發電所	三四	三二	一九	一〇	六〇	一五五
計	一四八	八三	八九	三二	一五	五〇二

然るに解雇慰謝金としての會社の支給額は僅々貳拾五圓宛にして、是れ覺書に反するとて西尾氏以下代表九名は警察部に出頭し各自日給四十日分の支給を要求したりしが、結局、警察部調停に立ちて互讓の結果、五拾圓宛を支給する事に決定して折合ひたり。

尙解決案の出來せる翌十七日の朝刊大阪毎日新聞は早くも、其覺書内容を掲載し十六日夜事件解決したる旨を報導したり。大阪毎日紙は事件中、大阪朝日紙に比して、職工側に冷たかりしため、友愛會は之に對して含むところあり、毎日紙の冷淡は毎日社の工場に發電設備なかりしため、大電にして休業せんか、毎日紙は印刷不可能となる事必然なるため深く之を虞れ、勢ひ會社に味方して職工側の屈服を早からしめんとしたりと推すべき理由あり。大阪毎日紙と競爭的立場にある大阪朝日紙には自家に發電設備あり。兩社と罷業團の三角關係の微妙なる經緯以て想見すべし。かくの如き毎日紙が、略定の覺書案を以て既に前夜解決せるものゝ如く報導したるの一事は、罷業團の激昂を招き其非買同盟を決議すると共に、「誤報毎日新聞」「毎日新聞を葬れ」との長旗を押し樹て、松岡駒吉氏以下三百餘名大阪毎日社前に到りて示威運動を試み遂に同社副主幹高石眞五郎氏をして謝罪的挨拶を爲さしめたり。然るに朝日紙十七日夕刊は、毎日社前の示威運動を寫眞版として掲載し、犬糞的復讐を試みき。一方、毎日記者に覺書を漏洩したる宮崎社長は十七日田中警察部長を訪ひ、其不明の罪を謝し此挿話の段落を告げぬ。

會社は轉勤者中の退職希望者にも、此の解雇手當を支給すべき旨發表したるが、優良職工と見做れ